

2024年3月11日 Vol.218

3月に登場する大型IPO

未知との遭遇は株式相場ではよく起きる現象と言える。日経平均が34年ぶりに過去最高値を更新し、その勢いを借りて4万円台乗せを果たしたのが3月前半に見られた未知との遭遇であるが、もう一つ予想されるのは日本株の時価総額1000兆円時代の到来である。海外投資家に支えられての日本株で日本国民にはその恩恵は実感としては伝わっておらず、まだ道半ばの株式相場展開であるが、賃金アップとともに多くの個人投資家に資産効果をもたらされることで個人消費にも好影響をもたらされることは想像に難くない。高級イメージのある各地デパートに足を運ぶ人の流れもコロナ前の状態に戻り、店内には活気が戻っている。

生成AIの登場でその社会インフラに不可欠な処理能力に優れた先端半導体関連企業への世界中の評価が一気に高まり、株式相場がホットな状況となる中で2月の5銘柄に続き、3月のIPO取引が21日から始まる。2月のIPO銘柄で最も関心が高まったのはAI関連で業績拡大中のVRAIN Solution(135A)で公開価格2990円に対して初値は5190円(+73.6%)となり、その後の高値は7440円。初値から43%余りの株価上昇を見た。同社は製造業向けにAI技術やIoT技術等の最新技術等を活用したサービスを提供。今後の製造業の生産性向上に寄与する企業としての位置づけ、今後の成長を評価されている。前2月期の売上高14.1億円(+128.5%)、営業利益4.97億円(+674.2%)との急成長見通しが株高を支えた格好。

3月のIPO銘柄は15と多く、特に26日は4銘柄が集中。その手始めとなる21日のトライアルホールディングス(141A)は福岡本社を地盤にエブリディロープライス型の4つの業態の小売業を全国311店舗で展開。通常の小売業のほかリテールAI事業を展開するなど店舗DX化を進めており、前6月期の業績は売上高6531億円、経常利益143億円という実績。今期は売上高7110億円、経常利益190億円、EPS104.3円、一株当たり配当金15円を予想しており、既に2Qまでの売上進捗率51%に対して経常利益の進捗率は63%に達しており、今回の上場費用は計上されるとしても余裕含みの業績見通しとなっている。特に既存店売上は公表データによると22年6月から昨年12月まで12カ月連続の前年比プラスで推移。効率性の高さや消費者からの支持による店舗運営が光っている。

公開価格の上限株価は1700円で11日に正式決定するが放出株数は2628万株(上限)と比較的多い大型IPOのため、IPO前に申し込まれた投資家の関心は高いかと推察される。同社の場合は既に類似企業が様々に存在しており、派手さには欠けるため初値は穏健なスタートとなりそうだが、ファーストリテイリングに代表される消費関連銘柄もこのところ株価堅調で、同時にAI活用の効率化とも合わさって初値形成後の評価も着実に高まる可能性がありそうだ。(東京IPOコラムニスト 松尾範久)